



物流ニッポン

2008年(平成20年)

12 | 15 (月)

発行/月曜日・木曜日 第3187号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)
©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

通販物流の機能強化



新習志野販売物流センターが入居する予定のフロンスパーク習志野III提供写真

ヤマトロジ

来月、習志野拠点が稼働

オートピック ファクトリー リードタイム短縮

【大沢瑛美子】ヤマトロジステイクス山内雅喜社長、東京都中央区は来月一月中旬から、自動倉庫システム「オートピックファクトリー」を設置した通販向け拠点「新習志野販売物流センター」(千葉県習志野市)を本格稼働させる。さらに、同月中には大阪市内で「大阪販売物流センター」を開設。その後も、三月までに福岡、西大阪、東京地区で自動倉庫を設置した販売物流センターを増設する計画があり、通販物流の機能強化を推進する。

・ショッピング・サービス」を展開する。ビックキング作業の自動化により、リードタイムを短縮するとともに品質向上を表現。一方、売れ筋商品についてはデジタルピッ

キングも採用し、稼働開始。センター面積は一スの拡充を図る。品別に柔軟性を確保する万二千五百平方メートルとなる。返品業務にも二十四時間対応、商品のチェックスルードを上げ、荷主の在庫圧縮に役立つ。その上で、ことし三月までに福岡、西大阪、さらにはヤマト運輸の東京支店でも販売物流センターの立ち上げも計画。ヤマトでも販売物流センターおむは来月一月から神奈川県、およびオートピックファクトリーを開設する方向。来期中には北陸や中国地区のベイス拠点に併設する形を予定しており、上層階に倉庫およびオートピックファクトリーをし、通販業務支援サービスも提供される。今月新設する二センターの総投資額は、それぞれ一億程度。ヤマトロジステイクス販売物流センターは、自動倉庫の精度とスピードを向上させるとともに、梱包作業でも自動動倉庫は安全性が非常に高く、導入効果も大きい。引き継ぎも、今後五年間で巻き込み、今後は通販物流宅急便のような通販物流のデファクトスタンダード(事実上の標準)を構築すると意気込みを語る。

新習志野販売物流センター習志野IIIの二フロアを賃万五千三百平方メートル。船橋ターミナルはフロンスパーク借した。延べ床面積は一周辺で請け負っていた中小通販会社の物流を集約する。大手GMS(総合小売業者)の通販部門での倉庫内業務および全国配送を新たに受託しており、当初からフル稼働となる見込みだ。

倉庫内にはオートピックファクトリーを設置し、午前〇時までの受注に対して翌日午前中の配送を実施する「トウデイ